



## PDFを悪用した標的型メール

企業の重要情報を盗み取ることなどを目的にウイルスを仕込んだメールを送りつける「標的型メール攻撃」の確認件数は、本年上半期では589件で、昨年下半年期より2095件減少したものの、手口を日々変化させ、受信者をウイルスに感染させようとしています。

今回は、本年上半期の標的型メール攻撃の特徴を紹介しますので、被害防止の参考としてください。



### ○ 大多数が非公開のメールアドレスに対する攻撃

標的型メール攻撃の送信先メールアドレスは、インターネット上で公開されていないものが全体の96%を占めており、攻撃者が攻撃対象の企業や職員を調査し、周到な準備を行っていると思われます。

### ○ 多くの攻撃において送信元メールアドレスが偽装

標的型メールの送信元メールアドレスは、大学や銀行をかたるなど、偽装されていると考えられるものが全体の99%を占めています。

### ○ 添付ファイルの形式はPDFファイルが急増

標的型メールに添付されたファイルの形式については、PDFファイルが急増し、昨年が0件だったのに対し、本年上半期だけで215件(全体の36%)が確認され、その大半が、新たに確認されたPDFファイルにWordファイルを埋め込むという手口のものでした。

また、圧縮ファイルについては、261件(全体の44%)が確認されており、実行ファイルである「.exe」のほか、スクリプトファイルである「.wsf」、「.js」が確認されています。



サイバー犯罪（インターネットに関する犯罪）の通報やご相談は・・・

石川県警察本部生活環境課サイバー犯罪対策室



076-225-0110



cyber@police.pref.ishikawa.lg.jp